

関西大学政策創造学部 × 丸善雄松堂

新入生に贈る 100冊



2022
年度版



KANSAI UNIVERSITY

はじめに

私たちが一生のうちに自分自身で経験できることはどのくらいあるでしょうか。テレビやネットで見たあの場所も、誰かが遭遇したあんな出来事も、人生観を変えてしまうような物語も、自分の人生の中で経験できるとはかぎらない。むしろ、経験できない可能性の方が圧倒的に高い。だからこそ、自分の感覚を研ぎ澄まして、一日一日を大切に生きていこう。幸せは自分の足元に転がっているのだから——私たちはそんな風に考えたりもします。たしかに、幸せは足元に転がっているかもしれません（よく探してみてください）。でも、足元とは言わなくても、擬似的に私たちに経験をあたえ、私たちの考え方やものの見方を変えてくれるものは、手近なところにあります。そう、本です。

本を読んで、私たちは自分の知らなかった世界を知ることがあります。私たちと同じように「イマ・ココ」を一生懸命に生きていた過去の人びと、テレビやネットが伝えない遠くの国で起きている惨禍、知っているようで知らないこの社会の仕組みなど、本を開けばそれまで見えていなかった世界が広がります。そして、本を読んで、私たちは自分の考え方を考えることができます。あたり前だと思っていた世界が違った色で見えてくる体験は、本を読むことの至上の喜びかもしれません。私個人のお話をさせてもらうと、ある本を読んだ際に受けた衝撃で、手が震えてその本を持っていられなくなったことがあります。

もちろん、なにごとにも自分で体験することはとても大切です。それはあなたにとって忘れられない経験となるでしょう。しかし、収束の兆しがいまだに見えない新型コロナウイルス感染症の拡大は、あなたが直接的に体験できることの幅を狭めてしまっているかもしれません。そんなときに、もし世界のことについてもっと知りたいと思ったのなら、そして、もし今までの自分になかった視点を得たいと思ったのなら、ぜひ本を手にとってみてください。最初は本を手にとって、パラパラとページをめくるだけで良いのです。すぐに消えてしまうネットやテレビの情報とは違い、開いた本の先に広がる世界は、ずっとあなたを待っていてくれます。

でも、本を手にとると言っても、どんな本を読めばいいのかわからない、という人もいるでしょう。ここで紹介する100冊のリスト（映画やマンガをセレクトした「+ α 」付き）は、政策創造学部の教員が学生のみなさんに読んでもらいたいと思って選んだものです。ジャンルも分野も難易度もさまざまで、目移りしてしまうかもしれませんが、もちろん、選んだ教員たちはどの本も自信をもっておすすめしていますが、ひとまず自分に合いそうな本を見つけるためには、短い紹介文を参考にしてみてください。

本を読んで得た経験は、そのひとつひとつが糧となってみなさんの未来を創造してくれるはずです。

編集代表



世界を知る

国際政治学、人類学など

01

戦争とは何か

——国際政治学の挑戦



著者 多湖 淳

出版社 中央公論新社、2020年

最新の国際政治学の研究成果を踏まえた、紛争研究の入門書。社会科学が戦争について何をどこまで明らかにしてきたのか分かる。(¥880)

02

地経学とは何か



著者 船橋 洋一

出版社 文藝春秋、2020年

米中対立はもとより、大混乱する現在の国際政治経済。サイバーセキュリティをはじめ、その主要な論点を網羅した新書。超一流のジャーナリストの取材と分析にうなる。(¥990)

03

悲劇の世界遺産

——ダークツーリズムから見た世界



著者 井出 明

出版社 文春新書、2021年

目を背けたくくなるような歴史を、忘却するのではなく共有するにはどうしたらよいか。その答えの一つは観光の対象とすることだ。戦争遺跡や震災遺構の扱いについて考えさせられる。(¥1,210)

04

欧州複合危機

——苦悶するEU、揺れる世界



著者 遠藤 乾

出版社 中央公論新社、2016年

経済・通貨危機、難民流入、度重なるテロ、ポピュリズム、ブレグジット……危機に次ぐ危機を迎えるEU。その全体像を把握したいなら、まずはこの本。(¥946)

05

ヒトラーとナチ・ドイツ



著者 石田 勇治

出版社 講談社、2015年

ナチスもヒトラーも知っているようで知らない。分かっているようで、分かっていない。あらゆる政治的現象が比較参照してしまうナチズムに関する、入門書の決定版。(¥1,100)

06

アメリカ政治講義



著者 西山 隆行

出版社 筑摩書房、2018年

弱くなったとは言え、未だに世界を動かしている国、アメリカ。その国内政治の最適入門書。安価で分かりやすく、しかも信頼できる。(¥902)

07

戦火の欧州・中東関係史

——収奪と報復の200年



著者 福富 満久

出版社 東洋経済新報社、2018年

日々、ニュースに出てくる中東の紛争。一体、どういう歴史的経緯で、このような惨劇が起きているのか。この本は中東をよりグローバルな歴史のなかに置くことで、問題を立体的に語ることに成功している。(¥1,760)

08

池上彰の世界の見方 東南アジア

——ASEANの国々



著者 池上 彰

出版社 小学館、2019年

東南アジア=ASEANは、冷戦体制下の代理戦争の「戦場」から今や成長著しい「市場」へ。日本の政治・経済の行方を左右する隣人だ！(¥1,540)

09

フィリピン
——急成長する若き「大国」



著 者 井出 穰治
出版社 中央公論新社、2017年
フィリピンはグローバル化が急進行する今、「周回遅れのトップランナー」になりつつある。目からウロコ、偏見から自由になるために。(¥880)

11

「その日暮らし」の人類学
——もう一つの資本主義経済



著 者 小川 さやか
出版社 光文社、2016年
気鋭の人類学者による「働くこと」と「生きること」についての考察。東アフリカと香港のストリート経済のフィールドワークを丹念に行なってきた著者が、われわれの働き方や生き方が当たり前ではないことを示す。(¥814)

13

サピエンス全史
——文明の構造と人類の幸福(上)(下)



著 者 ユヴァル・ノア・ハラリ
出版社 河出書房新社、2016年
長い歴史時間と広い地球空間のなかで、人類(生物種ヒト)の幸福を考えるために。日本人の苦手な発想と問題意識を学べる好著です。(上巻 ¥2,090)

15

ロシアは今日も荒れ模様



著 者 米原 万里
出版社 講談社、2001年
近いのに全然知られていない国、ロシア。知りたいなら、まずはこの本から。ロシア語通訳であり、日本を代表するエッセイストだった米原万里の代表作。ユーモアに満ちた傑作エッセイ。(¥682)

17

ハイパーハードボイルドグルメリポート



著 者 上出 遼平
出版社 朝日新聞出版、2020年
世界に興味があるなら絶対読んだ方がいい。少年兵、マフィア、カルト教団、世界のヤバい人たちのご飯を取材するテレビディレクターの、壮絶な取材日誌。国際政治のリアルがここにすべて詰まっている!(¥1,980)

10

「いいね!」戦争
——兵器化するソーシャルメディア



著 者 P.W.シンガー、エマーソン・T・ブルッキング
出版社 NHK出版、2019年
インターネットなどのサイバー領域の安全保障は、今最も熱いテーマのひとつである。その決定版と言えるのが本書。SNSをはじめとするインターネットの問題点がほとんど網羅されている。(¥2,640)

12

感染症の世界史



著 者 石 弘之
出版社 KADOKAWA、2018年
人類と感染症の闘いの歴史が文庫本で簡単に読めてしまう。新型コロナ問題で感染症に興味を持ったなら、まずは読んでみて。あなたの知らない事実が驚くほど書いてあるはず。(¥1,188)

14

生物多様性の多様性



著 者 森 章ほか
出版社 共立出版、2018年
多様性ってなんだということを学術的、理論的に考えている硬派な本。数式などはない。近年珍しく一気読みをした。(¥1,980)

16

ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー
——The Real British Secondary School Days



著 者 ブレイディみかこ
出版社 新潮文庫、2019年
イギリスの元・底辺中学校に入学した中学生の息子の日常を通じて、社会にはびこる人種差別、階級、貧困などを見ていくエッセイです。近い未来の日本社会が抱える問題がここに?(¥693)

18

幸福の増税論
——財政はだれのために



著 者 井出 英策
出版社 岩波新書、2018年
減税ではなく増税をあえて論じる。その覚悟がないリベラルは生き残れないと警告する。予想通りに民進党は爆発四散したが、同じ道を立憲民主党は行くのかな。(¥924)



働くこと、生きること、おカネの話

経済学など

19

ルポ 貧困女子



著者 飯島 裕子

出版社 岩波書店、2016年

これまでなかなか可視化されてこなかった女性の貧困について、ルポルタージュという形式で切り込んだのが本書です。本書を読んで、なぜ女性の貧困が見えてこなかったのかを考えてみましょう。

(¥902)

20

ワーキング・プア ——アメリカの下層社会



著者 デイヴィッド・K. シプラー

出版社 岩波書店、2007年

「働けど働けどなお我が暮らし楽にならざり」と歌ったのは石川啄木だが、世界中に勤勉で慎ましい生活をしながら貧困に苦しんでいる人が沢山いる。そうしたワーキング・プアの実態をアメリカで丁寧に取材。

(¥3,080)

21

SHOE DOG

——靴にすべてを。



著者 フィル・ナイト

出版社 東洋経済新報社、2017年

あのナイキをつくった男の自伝。起業とビジネスの躍動感が伝わってくるだけでなく、ナイキの創業に日本人や日本企業が深くかかわっていたこともよくわかる。

(¥1,980)

22

〈英国紳士〉の生態学

——ことばから暮らしまで



著者 新井 潤美

出版社 講談社、2020年

イギリス階級社会におけるロウアー・ミドル階級についての文化論。

(¥1,056)

23

破産者たちの中世



著者 桜井 英治

出版社 山川出版社、2005年

日本中世における高度で自生的な信用経済システムの発達。

(¥880)

24

大飢饉、室町社会を襲う!



著者 清水 克行

出版社 吉川弘文館、2008年

15世紀応永年間の大飢饉の構造と、極度の「格差社会」に暮らす中世人の行動様式。

(¥1,870)

25

大坂堂島米市場

——江戸幕府 VS 市場経済



著者 高槻 泰郎

出版社 講談社、2018年

現代の凄腕投資家も真っ青な先端的市場が江戸時代の大坂に!?証券(米切手)の先物取引(帳合米商い)が駆使される商品先物市場(堂島米市場)を中心とした近世の市場経済と、それを制御しようとする江戸幕府。

(¥990)

26

生きづらい明治社会

——不安と競争の時代



著者 松沢 裕作

出版社 岩波ジュニア新書、2018年

「努力すれば成功する」という「通俗道徳」の罨から、明治社会のあり方を描く。明治社会と現代との類似性には考えさせられることも多いはず。

(¥880)

働くこと、生きること、おカネの話

27

貨幣発行自由化論 改訂版 ——競争通貨の理論と実行に関する分析



著者 フリードリヒ・ハイエク

出版社 日経BP、2020年

暗号通貨登場の遙か以前に構想された、自由主義者ハイエクによる理想の通貨論。
(¥2,640)

28

暗号通貨 vs. 国家 ——ビットコインは終わらない



著者 坂井 豊貴

出版社 SBクリエイティブ、2019年

ビットコインってよく聞くけれど、何のことかまったくわからない初心者向け。硬派な経済学者が柔らかく解説する。
(¥880)

29

予想どおりに不合理 ——行動経済学が明かす「あなたがそれを選ぶわけ」



著者 ダン・アリエリー

出版社 早川書房、2013年

お店に行ってあなたが手に取った商品。それはあなたが選んだのではなく、選ばされたのかもしれない。人間の不合理な選択を合理的に説明する行動経済学のベストセラー。
(¥990)

30

とんでもなく役に立つ数学



著者 西成 活裕

出版社 朝日出版社、2011年

微分って覚える？あれが何のためにあるのか、この本を読むとわかります。数学と物理とは学際的に学んだほうが頭に入る。はず。波を見て三角関数が見えたら勝ち。
(¥1,540)

31

「学力」の経済学



著者 中室 牧子

出版社 ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年

大ベストセラーになった「教育書」。どうせカネをかけるなら就学前教育など、将来の子育てのヒントが満載。
(¥1,760)





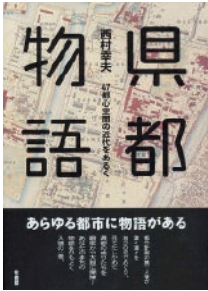
社会の「当たり前」を疑う

社会学、人類学、哲学など

32

県都物語

——47都心空間の近代をあるく



著者 西村 幸夫

出版社 有斐閣、2018年

ブラタモリを書籍化したかのような趣。明治以降の近代化と戦災復興を経て、それぞれ特有の地理的性質と歴史を持った47の県庁所在地が発展・変容していく様子が図面や地図と共に理解できる。(¥3,960)

34

想像の共同体

——ナショナリズムの起源と流行



著者 ベネディクト・アンダーソン

出版社 書籍工房早山、2007年

ナショナリズムとは何なのか、その起源と機能について。人々のネイションへの帰属意識がつけられる構造を論じた記念碑的著作。(¥2,200)

36

道徳の系譜 改版



著者 ニーチェ

出版社 岩波文庫、2010年

現代思想に多大な影響を与えたニーチェ自身が、自分の哲学の入門書としている。道徳や倫理が嫌いな人向け。短く、読みやすい。(¥924)

38

タテ社会の人間関係

タテ社会の人間関係
第一社会の理論
中根千枝



講談社文庫
1967

著者 中根 千枝

出版社 講談社、1967年

日本人の自己意識・自画像に決定的な影響を与えた本です。発売以来50年、100万部を超えるベストセラー。インド、中国、欧米との比較の視点が新鮮。(¥880)

33

地域衰退



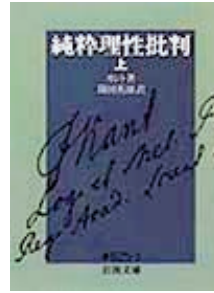
著者 宮崎 雅人

出版社 岩波新書、2021年

基幹産業がない地域は衰退以外の道はないと明言する。慈悲はない。題名の通り、冷徹な現実と正面から向き合うための本。深淵(アビス)をのぞく度胸が試される。(¥880)

35

純粹理性批判(上)(中)(下)



著者 イマヌエル・カント

出版社 岩波書店、1980年(上巻)

人間は理性によって世界を認識し、正しく行動できるはずだが、肝心の理性には限界があり、しばしば誤る。カントはその理性を徹底的に分析する。長く、読みにくい。挑戦者を求む。(上巻 ¥1,111)

37

暇と退屈の倫理学(増補新版)



著者 國分 功一郎

出版社 太田出版、2015年

暇と退屈という誰しもが身近に感じることを中心に、深く考え抜く哲学書。自分で深く考えるとはどういうことかを教えてくれる。(¥1,320)

39

全国アホ・バカ分布考

——はるかなる言葉の旅路



著者 松本 修

出版社 新潮社、1996年

探偵ナイトスクープ発。関東はアホと言ひ、関西はバカと言ふ。その境目はどこか。その疑問から調査を始め、方言の流布、分布に関する学会報告まで到達する。研究かくあるべし。(¥924)

社会の「当たり前」を疑う

40

忘れられた日本人



著者 宮本 常一

出版社 岩波書店、1984年

驚異的な規模で地を這うようなフィールドワークを行いながら庶民の暮らしを調べ続けた宮本常一の代表作。ほんの100年ほど前の私たちの国で、人々が何を考へどのように暮らしていたのかを知る貴重な記録。(¥990)

42

ゲイという「経験」増補版



著者 伏見 憲明

出版社 ポット出版、2004年

ゲイを論じる論客は多いが、多くは個人的なエピソード集になりがち。そのなかで本書はゲイを理論的に分析してみせる。ジェンダーを4つのレイヤーから把握する視点は至極白眉。(¥3,850)

44

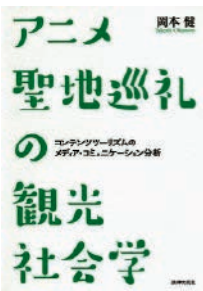
安心社会から信頼社会へ
——日本型システムの行方

著者 山岸 俊男

出版社 中央公論新社、1999年

日本社会とはどのような社会なのか。著名な社会心理学者が「安心」「信頼」という概念を使いながら描き出した好著です。概念を用いて社会を理解することについて教えてください。(¥836)

46

アニメ聖地巡礼の観光社会学
——コンテンツツーリズムのメディア・コミュニケーション分析

著者 岡本 健

出版社 法律文化社、2018年

若者にとって身近なアニメ聖地巡礼も、立派に学問の対象になるのだということを教えてください。聖地巡礼者は読んでみては。(¥3,080)

48

気流の鳴る音
——交響するコミュニケーション

著者 真木 悠介

出版社 筑摩書房、2003年

東大社会学教授が南米インディオの呪術師の世界観に魅了され、近代西欧社会を超えて人間解放の未来を希求する書。(¥990)

41

大阪アースダイバー



著者 中沢 新一

出版社 講談社、2012年

難波の時空間に飛び込んで、土地に刻み込まれた歴史と文化を読み解いていく試み。祈りから笑い、食から性愛まで、何百年にも渡ってこの土地で繰り返されてきた人々の営みの蓄積としての大阪の姿が浮かんでくる。(¥2,090)

43

生き心地の良い町

——この自殺率の低さには理由がある



著者 岡 檀

出版社 講談社、2013年

日本一自殺率の低い町、徳島県旧海辺町で医療社会学者が行った4年間のフィールドワークの報告書。町で交わされる何気ないやりとりから、この土地で伝統的に形成された生きるための知とコミュニティの姿が明らかに。(¥1,540)

45

「怪異」の政治社会学
——室町人の思考をさぐる

著者 高谷 知佳

出版社 講談社、2016年

「呪術廻戦」や「鬼滅の刃」に代表されるように、今や怪異の大ブーム。本書は主に中世の日本史研究の立場から怪異を紐解く。すると見えてくるのは、中世日本の政治、社会、法の構造。(¥1,925)

47

アンダーグラウンド



著者 村上 春樹

出版社 講談社、1999年

日本を代表する作家が地道に行ったインタビューの記録。1995年の地下鉄サリン事件の被害者と関係者61人の証言が村上の筆を通して伝えられる。圧倒的な量と密度。メディアの情報からは知りえない現場の実情と人間の姿。(¥1,320)

49

時間の比較社会学



著者 真木 悠介

出版社 岩波書店、2003年

あなたの時間感覚は当たり前じゃない！他の社会や時代では、人々は全く異なる時間のなかで生きている。時間という概念を問い直せば、世界は違って見えるはず。(¥1,606)

50

カミングアウト



著者 砂川 秀樹

出版社 朝日新聞出版、2018年

家族や友人に自分が性的少数者であることを「カミングアウト=告白」することは、かなりの勇気が必要。本書はそれぞれのエピソードを通じて、性や家族とは何か、マイノリティであることは……と考えさせる。(¥836)

52

結婚の奴



著者 能町 みね子

出版社 平凡社、2019年

恋愛感情なしの結婚は成立するか？性的志向の異なる2人が「結婚生活」をはじめめるノンフィクション。人が一緒に暮らすことの意味を深く問い直す名著。(¥1,650)

54

論理哲学論考



著者 ウィットゲンシュタイン

出版社 岩波文庫、2003年

翻訳を担当している野矢茂樹さんによる『ウィットゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む(ちくま学芸文庫)』を併せて読むことを勧めたい。(¥858)

56

「自分らしさ」と日本語



著者 中村 桃子

出版社 ちくまプリマー新書、2021年

私たちのアイデンティティは、言葉によって作られる。一人称、敬語、方言など、私たちが普段使っている何気ない言葉に注目することで、現代社会と私たちについて問い直す。(¥946)

51

女子をこじらせて



著者 雨宮 まみ

出版社 幻冬舎、2015年

平成を駆け抜けた「こじらせ女子」ライターの代表的自伝エッセイ。「面倒」な性格の人にとって彼女は教師にも反面教師にもなる。(¥638)

53

野心のすすめ



著者 林 真理子

出版社 講談社、2013年

人気小説家、エッセイストが自らの経験に基づき女性目線で語る「野心」とは、人生とは。(¥990)

55

誰が音楽をタダにした？

——巨大産業をぶっ潰した男たち



著者 スティーヴン・ウィット

出版社 早川文庫 NF、2018年

音楽はサブスクリプションで聴く現代。ちょっと前まで、音楽は電子データにすらできなかった。なぜ音楽が電子データになり、ネット上に流布したのかを明らかにした名著。サスペンスのような面白さ！(¥1,034)

社会の「当たり前」を疑う





声を上げる、闘う、権利を守る

法学・政治学など

57 自由論

自由論

J.S.ミル著
関口正司訳



著者 J.S.ミル

出版社 岩波文庫、2020年

難しそうな古典…という印象かもしれませんが、読んでみるとその論旨の明確さや現代までつながる問題提起にきっとハッとさせられる一冊です。(¥924)

58 多数決を疑う

——社会的選択理論とは何か



著者 坂井 豊貴

出版社 岩波書店、2015年

多数決は民意を反映しないかもしれない？民主主義社会に生きる私たちにとって衝撃的なこの事実を、わかりやすい解説で教えてくれる。多数決には色々なやり方がある、それぞれに一長一短があるなんて知ってた？(¥880)

59 キヨミズ准教授の法学入門



著者 木村 草太

出版社 星海社、2012年

高校生の主人公がキヨミズ准教授と出会い、学校での様々な出来事を通して法学について学んでいく。法学の基礎について小説形式で学ぶ入門書。(¥924)

60 未来をはじめ

——「人と一緒にいること」の政治学



著者 宇野 重規

出版社 東京大学出版会、2018年

東京大学で政治学を教える著者が、女子高に行き政治学の考え方について講義をした記録。これから政治学を学ぶのだけれど、政治学って堅苦しそうでなんか苦手…と思う方に読んでもらいたい一冊。(¥1,760)

61 ポピュリズムとは何か

——民主主義の敵か、改革の希望か



著者 水島 治郎

出版社 中央公論新社、2016年

あらゆるメディアに出てくる「ポピュリズム」という言葉。実に捉えにくいこの概念をきれいに整理し、説明してくれる。好著。(¥902)

62 AIと憲法



著者 山本 龍彦 編

出版社 日本経済新聞出版社、2018年

AIの普及は、事前予測に基づく個人の効率的な仕分け（社会的排除）や意思決定の操作等のリスクを生み出す。個人の尊重、平等原則、民主主義等の憲法原理と調和的なAI社会の実現について考える。(¥2,640)

63 日本の近代とは何であったか

——問題史的考察



著者 三谷 太一郎

出版社 岩波書店、2017年

日本はなぜ発展したのか？ヨーロッパ近代の重要概念から、日本の近代を考える。(¥968)

64 法と社会科学をつなぐ



著者 飯田 高

出版社 有斐閣、2016年

法学とその他の社会科学（経済学、社会学、心理学など）との接点を探る。分野横断的な政策創造学部での学びの手がかり。(¥2,310)

声を上げる、闘う、権利を守る

65

憲法で読むアメリカ史(全)



著者 阿川 尚之

出版社 筑摩書房、2013年

建国以来のアメリカの歴史を憲法という視点から理解する。南北戦争、世界大戦、ニューディールなどの各時代の重要な政治問題は憲法問題でもある。(¥1,540)

67

大阪の選択

——なぜ都構想は再び否決されたのか



著者 善教 将大

出版社 有斐閣、2021年

今や大阪や関西以外でも勢力が拡大しつつある維新の会。しかし、看板政策の大阪都構想は2度も住民投票で否決されている。なぜか。その謎に迫る。(¥2,090)

69

三くだり半

——江戸の離婚と女性たち(増補)

No Image

著者 高木 侃

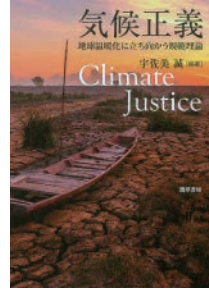
出版社 平凡社、1999年

江戸時代の離婚制度から、権利と義務の問題を考える。(¥1,540)

66

気候正義

——地球温暖化に立ち向かう規範理論



著者 宇佐 美誠 編

出版社 勁草書房、2019年

地球全体での温室効果ガスの排出削減に取り組むにあたって、その負担をいかに分配するか。気候変動政策をめぐる分配的正義について哲学的・倫理的に考察する。(¥3,520)

68

子育て罰

——「親子に冷たい日本」を変えるには



著者 末富 芳、桜井 啓太

出版社 光文社新書、2021年

法日本社会が直面する少子化という問題。本書は「子育ては自己責任」「お金がないなら産むな」がはびこる現代において、少子化問題の本質に鋭く迫る。(¥1,012)

声を上げる、闘う、
権利を守る





多様な思考法を知る

社会科学一般

70

FACTFULNESS

——10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣



著者 ハンス・ロスリングほか

出版社 日経BP社、2019年

フェイクニュースに引っかかることなく、データに基づき正確に世界の現状を認識する力を身につけるために。世界的ベストセラー。(¥1,980)

71

イシューからはじめよ

——知的生産の「シンプルな本質」



著者 安宅 和人

出版社 英治出版、2010年

元マッキンゼーのコンサルタントで脳科学者でもあった著者の知的生産本。コンサルたちの徹底的に合理的で実践的な認識と思考のパターンが分かる。こうした思考パターンのみが現実を捉える方法なのかも考えてみて欲しい。(¥1,980)

72

～東大生が書いた～

問題を解く力を鍛えるケース問題ノート

——50の厳選フレームワークでどんな難問もスッキリ「地図化」!



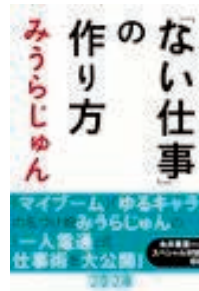
著者 東大ケーススタディ研究会

出版社 東洋経済新報社、2010年

「マクドナルドの売り上げを伸ばすには？」不完全な情報しかないなかで、与えられた問題に合理的な解決案を検討する思考法が平易に解説されている。ぜひ就職活動のグループワーク対策に、社会科学的思考の訓練に。(¥1,650)

73

「ない仕事」の作り方



著者 みうらじゅん

出版社 文藝春秋、2018年

「マイブーム」や「ゆるキャラ」という概念を生み出したのは、この人！彼の本業は、それまで世の中に「なかった仕事」「なかった趣味」を創造すること。一流クリエイターの思考法が分かる。(¥726)





今、読みたい物語、 ノンフィクション、批評

人文学

小説

科学的分析とは別の方法で本質を描く

74 鹿の王(上)(下)



著者 上橋 菜穂子

出版社 KADOKAWA、2014年

架空の国を舞台に未知のウィルスとの戦いの中で、互いの死生観をぶつけ合う若い医師達。コロナ禍に世界が揺れる今だからこそ一読を。(上巻 ¥1,760)

75 日本国債(上)(下)



著者 幸田 真音

出版社 講談社、2003年

国債が市中消化できない状態を未達^{みだつ}と言う。それがもし日本で発生したら、どうなるかを描く。日銀職員や財務(大蔵)官僚の日常的な仕事ぶりがわかる。良くも悪くも。(上巻 ¥682)

76 宴のあと



著者 三島 由紀夫

出版社 新潮文庫、2020年

プライバシーの権利をめぐる裁判(宴のあと事件)の原因として有名な小説。世間では忘れられがちだが、この小説の芸術性は極めて高い。政治とは何か考えるうえでも非常に示唆に富む名作。

(¥649)

77 三四郎



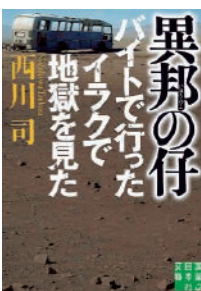
著者 夏目 漱石

出版社 岩波書店、1990年

九州の田舎から東京の大学に通うために上京した学生が主人公。古典にもかかわらず、現代的ラブコメ要素も満載で読みやすい。他方、急激な近代を進める日本の歪みにも光を当てる骨太な側面も。

(¥550)

78 異邦の仔 ——バイトで行ったイラクで地獄を見た



著者 西川 司

出版社 実業之日本社文庫、2020年

実話に基づくドキュメンタリー小説。月給100万円のアルバイトに飛びついた若者が連れて行かれたのは、摂氏50度の国、イラク。地獄のような仕事の果てにさらなる地獄が待っているよ。(¥858)

79 幻坂



著者 有栖川 有栖

出版社 KADOKAWA、2016年

大阪天王寺七坂を舞台にした短編集。大阪観光と言えば、大阪城に通天閣に戎橋かもしれないが、この本を読めば、隠れた名所である天王寺七坂に行ってみたくなるはず。(¥704)

今、読みたい物語、
ノンフィクション、
批評

80

触法少女



著 者 ヒキタ クニオ

出版社 徳間書店、2015年

刑事責任年齢14歳。テンポよく話に吸い込まれながら、少年犯罪にまつわるさまざまな事柄について考えさせられる一冊。(¥748)

82

倒産続きの彼女



著 者 新川 帆立

出版社 宝島社、2021年

東大法科大学院卒、弁護士としての勤務歴もある著者による2人の異なるタイプの女性が活躍するミステリー小説。主人公玉子の心の声も20代女性の悩みを的確に捉えていて興味深い。随所随所で法律の話が出てくるが、ミステリーなので頭に入りやすい。(¥1,540)

84

色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年



著 者 村上 春樹

出版社 文藝春秋、2013年

ハルキストになるきっかけとなるかもしれない一冊。「大学2年生の7月から……」で始まる物語。(¥1,870)

86

十角館の殺人(新装改訂版)



著 者 綾辻 行人

出版社 講談社、2007年

新本格推理小説という潮流の一の矢。複雑なものよりシンプルな話の方が面白いことを再確認させてくれる。(¥946)

88

密偵



著 者 ジョゼフ・コンラッド

出版社 岩波書店、1990年

テロリズムをテーマとした古典小説の代表。原著は1907年で、19世紀のテロがモチーフだが、911事件後、再び脚光を浴びた。21世紀にも通じる普遍的な人間性が描かれた名著。(¥1,177)

81

震える牛



著 者 相場 英雄

出版社 小学館、2013年

地元商店街の苦境、加工食品の安全など、現代社会における問題を扱うミステリー小説。(¥785)

83

夏の坂道



著 者 村木 嵐

出版社 潮文庫、2021年

人戦前から戦後にかけての時代を生きた実在の政治学者・南原繁の生涯を描いた長編小説。激動の時代において政治学の使命を追究した青年は、やがて大学教育の再建に乗り出すことになる。(¥990)

85

検事の本懐



著 者 柚月 裕子

出版社 宝島社文庫、2012年

人間味のある検事が主役のシリーズの中の一冊。(¥723)

87

一九八四年(新訳版)



著 者 ジョージ・オーウェル

出版社 早川書房、2009年

大学生の間に読んでおきたい著名な小説。人間が自由に考え、生きることが奪われた社会とはどのようなものなのかを描き出します。“望ましい”社会とはどのようなものなのか、考えたことはありますか？(¥946)



ノンフィクション

時として、事実は小説よりも奇なり

89 木のいのち木のころ ——天・地・人



著者 西岡常一(著)、小川三夫(著)、塩野米松(著)

出版社 新潮社、2005年

「最後の宮大工」と呼ばれた昭和の名工、西岡常一とその弟子の小川三夫の話を塩野米松が聞き取りした記録。法隆寺を1300年に渡って支えてきた職人たちがどのように育っていくのか、その世界を垣間見ることができる。(¥1,045)

91 かくれ里



著者 白洲 正子

出版社 講談社、1991年

畿内の主要な街道筋から外れた山里にひっそり残された美術品・工芸品を訪ねて回る旅の記録。端正な筆で、訪れた場所の風情や歴史、作品の佇まいが語られる。骨董の目利きである著者のモノを愛でる眼差しが溢れる。(¥1,375)

93 迷子のコピーライター



著者 日下 慶太

出版社 イースト・プレス、2018年

関西出身の電通マンが自分の半生を語った本。コピーライターという仕事がものすごく良く分かる。今、人生に迷っているなら、ぜひ読んでほしい！(¥1,815)

95 京都のおねだん



著者 大野 裕之

出版社 講談社、2017年

京都のお店のなかには、料金が不明なところが数多くある。私のような庶民には、料亭やお茶屋さんは一生の謎である。本書は、そうした京都のおもてなしのお値段の仕組みをユーモアに富んだ筆致で説明してくれる。(¥990)

90 2016年の週刊文春



著者 柳澤 健

出版社 光文社、2020年

本書は単なる週刊誌の話ではない。戦前から現在までの日本メディア史の好著。決して難解ではないどころか、驚くほど面白い。なぜ週刊文春がスクープにこだわるのかが、これで分かる。(¥2,530)

92 ナイチンゲール ——神話と真実【新版】



著者 ヒュー・スモール

出版社 みすず書房、2018年

近代看護の生みの親とも言われるナイチンゲール。実はクリミア戦争で名声を得た後、看護の世界から距離を置き続けた。その謎を紐解くと、私たちの知らない衝撃のナイチンゲールの姿が！(¥3,960)

94 一瞬の夏(上)(下)



著者 沢木 耕太郎

出版社 新潮社、1984年

あるプロボクサーの再起をかけたプロセスを描いたルポの名作。駆け出しのルポライターだった沢木は自らプロモーターとして積極的に関わっていく。書く者と書かれる者、調査者と対象との関係について考えさせられる。(上巻 ¥781)

今、読みたい物語、ノンフィクション、批評



思想・批評

これこそ文化を前進させる営為

96 日本近代文学の起源 原本

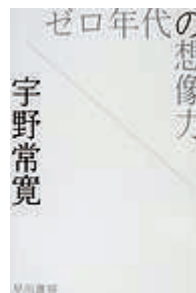


著者 柄谷 行人

出版社 講談社、2009年

思想家、柄谷行人の原点となる作品の一つ。私たちが現実を忠実に写しとった結果出来上がったと信じてやまない「写实的」な表象は、実はある人々の自意識によって創造された特定の認識のあり方に過ぎないという。(¥1,540)

97 ゼロ年代の想像力

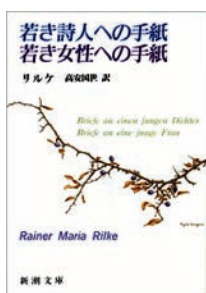


著者 宇野 常寛

出版社 早川書房、2011年

まだAKBにはまる前の批評家、宇野常寛氏の第一作。村上春樹やエヴァンゲリオンに切り込んでいく鮮やかな時代分析。(¥902)

98 若き詩人への手紙・若き女性への手紙



著者 リルケ

出版社 新潮文庫、1953年

取るに足らない知人・友人と付き合うくらいならば、孤独の方がはるかにましなことを教えてくれる本。(¥473)

99 ライムスター宇多丸の「ラップ史」入門



著者 宇多丸ほか

出版社 NHK出版、2018年

現在、ヒップホップが世界の主流の音楽となり、政治学的にも人文学的にも最重要な文化のひとつとなった。しかし、その歴史は難解。それを網羅的かつ平易に楽しく解説した最良の入門書。(¥1,760)

100 荘子 内篇



著者 福永 光司

出版社 講談社学術文庫、2011年

この福永版「荘子」を復刊した一事だけでも講談社を評価したい。(¥1,430)



※一部の書籍の「出版社」にはレーベルを記載しているものもあり。

ここからは、映像作品とコミックスを紹介します。大学では、どうしても言葉（ロゴス）を中心に学びが展開されます。たとえば、卒業論文として映像作品を提出することはないですね。けれど、絵や映像も大切な人間の知の一部です。映画しか表現できないこと、漫画でしか伝えられないことが存在します。ですから、このリストには、そうした映像作品やコミックスも加えました。どうぞお楽しみに！



ロゴスを超えて

映像作品とコミックス

コミックス

もはや、ある種の総合芸術

01 コウノドリ



著者 鈴ノ木 ユウ
出版社 講談社、2013-2020年

妊娠、出産のリアリティーを扱う人気漫画。男女・世代を問わずに読める。産科・婦人科医療が抱える問題について、魅力的なキャラクターの職場生活を通して勉強できる連載中の漫画。

02 石の花



著者 坂口 尚
出版社 潮出版社、2015年

ドイツ侵攻下のユーゴスラビアで生きる少年少女たちを描く。日本人にはイメージしにくい多民族国家の歴史が手に取るようにわかる。「チトーさん、マジばねえっす。」

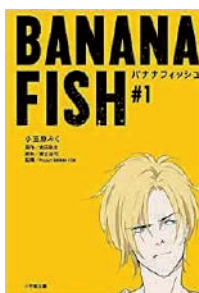
03 寄生獣



著者 岩明 均
出版社 講談社、1990-1995年

人間に寄生し、人間を食らう地球外生物が飛来した世界。人間から見れば彼らは敵。だが別の視点から見れば人間のほうこそ敵。with コロナ社会の今こそ読んでおきたい。

04 BANANA FISH



著者 吉田 秋生
出版社 小学館、1997年

NYのギャングのボス、アッシュと、日本の青年、エイジとが出会う。平凡に生きるエイジに、自分の理想を見つけるアッシュ。でも自分はそっち側にはいけない。いけないんだよ。

05 マッドメン



著者 諸星 大二郎
出版社 河出書房新社、2015年

パプアニューギニアを舞台に、現地の少数民族の少年と、日本人の人類学者を父に持つ娘が出会い、冒険する物語。神話や民俗学などのモチーフがふんだんに盛り込まれた名作。

06 ミステリと言う勿れ



著者 田村 由美
出版社 小学館、2018-2020年

妙に理屈っぽい天然パーマの主人公が事件に巻き込まれながら、その推理力で謎を解いていく。主人公のセリフはいちいち社会科学的で、妙にアカデミック。他人とは思えない！現在連載中。

映画

1本の映画は、しばしば1冊の大著にも勝る

07 英国王のスピーチ



監督 トム・フーパー
公開情報 2010年、イギリス・オーストラリア・アメリカ合作
第二次世界大戦開戦直前のイギリス。国王ジョージ6世は、国民のために演説しなければならなくなるが、吃音に悩んでいた。その治療にあたったのが、大英帝国の自治植民地出身の言語療法士だった。ふたりは身分の差を超えて、困難に挑む。史実に基づく感動作。最後のスピーチは是非英語で。

08 第9地区



監督 ニール・ブロムカンプ
公開情報 2009年、アメリカ・南アフリカ・ニュージーランド合作
地球にやってきたエイリアンは、なんと難民。地球人は彼らを難民キャンプに押し込め、抑圧する。見た目がグロテスクなエイリアンたちだが、映画を見ていくうちに、人間の方が残酷で野蛮であることに気付かざるをえない。

09 ペンタゴン・ペーパーズ 最高機密文書



監督 スティーブン・スピルバーグ
公開情報 2017年、アメリカ
題名は、ベトナム戦争でのアメリカの失敗を分析した、米国防総省の最高機密文書の通称。これを暴露したのがワシントン・ポスト紙。当時、この新聞社を経営していたのが夫の死によって突然、社を任されたばかりの女性だった。彼女たちの頑張りに勇気が湧いてくる。

10 善き人のためのソナタ



監督 フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク
公開情報 2006年、ドイツ
冷戦末期の東ドイツでは、反体制派と疑わしき人々の監視・盗聴が行われていた。本作の主人公は、ある劇作家と女優の家を盗聴していた国家保安省の局員。彼は徐々にふたりの芸術や思想に心動かされていく。

11 麦の穂をゆらす風



監督 ケン・ローチ
公開情報 2006年、アイルランド・イギリス合作
1920年代の独立戦争とその後の内戦の時代のアイルランドに生きた兄弟の悲劇が、ローチらしいドライなタッチで描かれる。植民地支配下で横暴を極めるイギリス軍と血で血を洗う対立を繰り広げていく中で、IRAが過激化してゆく経緯がよくわかる。

12 マイ・ネーム・イズ・ジョー



監督 ケン・ローチ
公開情報 1998年、イギリス
グラスゴーの公営住宅地域に暮らしながら更生を目指しているアル中の中年男をめぐる人間関係が細やかに描かれた作品。カウンスル・エステートと呼ばれる公営住宅で生活することがどういことがよくわかる。この作品の中で話されているのがグラスウィージャンと呼ばれるグラスゴーの労働者階級の英語。到底理解できるものではない。

13 ベルファスト71



監督 ヤン・ドマンジュ
公開情報 2014年、ドイツ
1971年の北アイルランド・ベルファストに派遣されたばかりの若い兵士が、ひょんなことでIRA支配地区に取り残され、そこから決死の脱出を試みるという作品。娯楽サスペンスだが、1960年代後半から内戦状態へと過激化してゆく北アイルランドの雰囲気を感じることができる。

14 裏切りのサーカス



監督 トーマス・アルフレッドソン
公開情報 2011年、イギリス・フランス・ドイツ合作
冷戦下、イギリスの諜報機関とソ連の諜報機関が激しい情報戦を繰り広げていた。イギリスの諜報機関は、作戦の失敗や情報の漏えいなどから、組織内部に二重スパイがいることに気付く。見るたびに発見があるスパイ映画の超名作。

15

わが命つきるとも



監督 フレッド・ジンネマン

公開情報 1966年、イギリス

イングランド国王ヘンリー8世と王妃キャサリンとの離婚をめぐる騒動、大法官トマス・モアの処刑までを描く。信仰と忠誠、法の支配などを知るために。

17

不都合な真実



監督 デイヴィス・グッゲンハイム

公開情報 2006年、アメリカ

アメリカの元副大統領のアル・ゴア氏による地球温暖化の危機を訴える講演活動を追ったドキュメンタリー映画。同氏はノーベル平和賞を受賞。

19

十二人の怒れる男



監督 シドニー・ルメット

公開情報 1957年、アメリカ

殺人罪で起訴された少年の裁判で、陪審員が評決に達するまでの議論の様子を描いた映画。無罪推定の原則について考える。

21

仁義なき戦い



監督 深作 欣二

公開情報 5部作、1973-74年、日本

広島ヤクザの戦後史。神戸の巨大組織と対峙する第3部（代理戦争）・第4部（頂上作戦）の群像劇が出色（原作：飯干恵一『仁義なき戦い（死闘編・決戦編）』（角川文庫、1980年））。

23

日本のいちばん長い日

監督 岡本 喜八

公開情報 1967年、日本

御前会議において日本の降伏を決定した1945年（昭和20年）8月14日の正午から玉音放送の8月15日正午までの24時間を描く。

No Image

16

王妃マルゴ



監督 パトリス・シェロー

公開情報 1994年、フランス

フランス宗教戦争期のカトリックとプロテスタント（ユグノー）との対立を、王妃マルゴの視点から描く。時代考証はデタラメですが、美男美女しか出ません。

18

エリン・ブロコビッチ



監督 スティーブン・ソダーバーグ

公開情報 2000年、アメリカ

大企業を相手に公害訴訟を提起し、巨額の和解金を勝ち取った実在の女性の活躍を描いたヒューマン・ドラマ。

20

飢餓海峡



監督 内田 吐夢

公開情報 1965年、日本

終戦直後の壮絶な貧窮とそれが引き起こす殺人。原作も良い（原作：水上勉『飢餓海峡（上・下）』（新潮文庫、1990年））。

22

ショージとタカオ



監督 井手 洋子

公開情報 2010年、日本

布川事件の元被告人ふたりの仮釈放後の暮らしと再審請求に向けた活動を15年間にわたって追いかけたドキュメンタリー作品。

24

ゆきゆきて、神軍



監督 原 一男

公開情報 1987年、日本

元・帝国陸軍軍人、奥崎謙三（かなり狂ってます）の戦後の姿を描いたドキュメンタリー。

25

シン・ゴジラ



監督 庵野 秀明

公開情報 2016年、日本

公開の頃にはリアリズムが評価されるも、今見ると日本政治についてのファンタジー。

27

若おかみは小学生!



監督 高坂 希太郎

公開情報 2018年、日本

主人公の通称おっこは旅館を継ぐべく修行中。彼女が背負う過去、現在の自分、目指す未来の姿。それぞれを別の登場人物に投影してみせる脚本が秀逸。地上波(全24話)も観て。

26

クレヨンしんちゃん

——嵐を呼ぶ モーレツ! オトナ帝国の逆襲



監督 原 恵一

公開情報 2001年、日本

万博に突如怪獣が接近。「万博防衛隊」である野原一家はこれに対抗?

28

すみっコぐらし

——とびだす絵本とひみつのコ



監督 まんきゅう

公開情報 2019年、日本

わかりますか。ただの点で描かれている目が表情豊かに語りかけてくる、その驚きを。脚本と演出が織りなす物語が完璧な仕上がりに。子供向けと思って侮るなかれ。実質 FGO。

